

地域全体の下支えで 地域発展へとつなげる

中部地方整備局長
茅野 牧夫氏



一新 転機

昭和三十四年八月、大阪府出身。六十年三月、京都大学大学院修了。同四月、建設省入省。平成十一年五月、英国道路庁派遣。十九年七月、和歌山県県土整備部長。二十二年十月、近畿地方整備局道路部長。二十五年八月、道路局国道・防災課長。二十七年七月、中部地方整備局長就任。

【活気づく名古屋】 これまで全国各地で勤務してきましたが、名古屋は今回が初めてとなります。以前からインフラの面での関心は高く、また実際に来てからは、名古屋がいかに活気ある地域であるかを実感しました。

一般に、民間・商業・行政・経済界などの立場の違いで、地域の目指す方向にバラつきが生じるものです。ところが名古屋の場合、「名古屋をなんとかしたいこう！」という、ひとつの元気なベクトルにすっかりまとまっていると感じました。これが全国的にも名古屋が盛り上がりつつあるゆえんだらうと思います。

【なごやめし】 名古屋に来る以前から味噌カツが好きで、名古屋で味噌カツが食べられるということも、名古屋に来る楽しみの一つでした。

きしめん、手羽先など、なごやめしはどれも美味しく、本場で身近に味わえるのをとても楽しみにしています。

【道の駅の役割】 観光といえば、道の駅がブームです。しかし、愛

知県内の道の駅の数は、岐阜県や静岡県に比べ、とても少ないのが現状です。道の駅には、単純に観光案内所としての役割だけでなく、地域振興などの、地域の中心地としての役割も備わっています。

今後、愛知県内の道の駅を増やすことで、地域のポテンシャル向上へと繋げていきたいと思えます。

【インフラ整備の課題】 前勤務地では、インフラの整備を担当していました。なかでも、橋梁やトンネルといった土木構造物の老朽化への対応が急務となっています。今後は、急速に老朽化する土木構造物に対し、致命的な損傷が生じる前に、適切に修繕をしていきたいと考えています。

【抱負】 インフラを整備する仕事は、その地域において何かをしようと考える人々の条件を整えることです。

地域の皆さんのスタートラインを整えることで、地域全体の下支えとなり、地域発展へとつなげたいと考えています。